

児童発達支援事業所における自己評価結果(公

別添資料5

公表: 令和 5 年 3 月 31 日

事業所名

音楽療育どれみ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		療育内容に合わせて、療育室を変えている。	利用者の特性や同時間帯の人数に応じて、より細やかに配置換えを行っていく。
	2	職員の配置数は適切である	6		療育内容に応じて、二人体制にするなど対応している。	今後も適正な配置基準を満たし運営を行っていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	3	受け入れを個々に応じて対応している。	管理室にバリアフリー化を打診中である。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		清潔を心がけ、楽器や共同道具においては消毒を行っている。	環境整備を今後も徹底していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	2	個別支援計画を設定し、その子に応じた計画を相談しながら立てている。	職員間で協力し、より深い計画が練られるようにする。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	1	保護者様のご意見を素直に受け止め、改善に努めている。	保護者様とのコミュニケーションにおいて、ご意見いただいたことに対して真摯に受け止め、改善に努めていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1		開所1年であるため、今後公開を増やしていく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1	外部研修に職員が受講できるように配慮している。	外部研修において職員がバランスよく受講できるように今後も配慮していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		個々人の特性に合わせて、計画を作成している。	よりよい療育が提供できるよう、保護者様のニーズや課題を深く分析していく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		子どもの適応行動を職員間で話し合っている。	アセスメントツールを活用し、今後も適応行動について職員間で話し合い、状況把握に努める。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		利用者様の現状や保護者様にご要望を踏まえ、個別支援計画を設定を行っている。	状況や療育に合わせて、目標内容を見直し、実施していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		職員間で情報を共有し、支援内容を考えている。	今後も職員間の話し合いを密にしていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		支援内容について話し合い、共有する場を設けている。	職員間での話し合う時間をより深く設け、その子の特性に合った活動プログラムの立案に努める。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		子どもの様子や保護者様の意向に沿えるプログラムを作成している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6		基本的には個人活動に取り組み、季節の活動などでプログラムを実施している。	個別活動を密にしつつ、他者との関わりが持てる活動や行事を取り組んでいく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		支援準備段階で前回行った内容を確認し、担当の指導員と情報共有を行っている。	引き続き、職員間で協力し療育を行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		療育内容について、職員間で反省やアドバイスをを行っている。	個別療育だが、療育内容を目にしたり耳にできる環境であるため、この環境を今後も活かしていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		療育後、職員間で反省や改善点を話し合っている。	第三者的に自分の療育内容について省みることができるため、今後も続けていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		モニタリングを通して活動の様子を振り返り、必要に応じて課題を新たに設定している。	必要に応じて中間評価も行っていく。
関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		児童発達支援管理責任者が参加している。	場合によっては指導員も同行していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				対象児なし。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		その子の発達支援について情報共有している。	密に情報共有と相互理解に努めていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		その子の発達支援について情報共有している。	密に情報共有と相互理解に努めていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		研修会に参加している。	職員がバランスよく受講し、助言を受け、実践に活かしていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		6		コロナ禍であるため実施していない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している				
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	2	療育後、保護者様にその日の療育内容を伝えるよう心がけている。	療育時間関係上、深く伝えられないこともあるため、その際はアプリで詳しく伝えていく。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている					
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		ご契約時、または受給者更新時など説明している。	保護者様が理解しやすいよう丁寧な説明を心掛けていく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		利用者様の現状や保護者様のご要望を踏まえ、個別支援計画に目標の設定を行っている。	現状や療育に合わせて、目標内容を見直し、実践していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		面談を通して、相談に乗れるよう努めている。	いつでも相談できる環境を整えていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6		コロナ禍であるため実施していない。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		面談を通して、相談しやすい環境を整えている。	お子様の様子を適宜伝え、保護者様が相談しやすい環境を整えていく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		InstagramやYouTubeを活用し、発信している。	活動内容について楽しく視聴できるよう、今後発信していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6		社内のコンプライアンスの規定に測り、適切な運用を行っている。	引き続き適切な運用を行っていく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		口頭だけではなく視覚的にわかりやすい教材を活動プログラムに応じて活用している。	子どもや保護者様のニーズに適切に対応を心がけて、意思疎通や情報で伝達を行っていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている				
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6			開所1年目であるため、今後規定回数行っていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			開所1年目であるため、1回しか行っていない。今後規定回数行っていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		ご契約時に確認をしている。	今後も職員間で共有していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				対象児なし
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		全職員が理解できるようにしている。	全職員が目的を確認し、作成することができるよう努める。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		外部研修や内部研修を行い、適切な対応を共通理解している。	研修を通して、更なる理解向上に努める。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				対象児なし

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。